

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3370500328		
法人名	医療法人 社団きのこ会		
事業所名	グループホーム あんきな家		
所在地	岡山県笠岡市新賀美之越3220番地		
自己評価作成日	平成24年2月24日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=3370500328&SCD=320&PCD=33
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ライフサポート		
所在地	岡山市北区南方2丁目13-1 県総合福祉・ボランティア・NPO・会館		
訪問調査日	平成24年3月5日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・介護保険法の理念に基づき、家庭的な環境の中で利用者が健康で明るく安心した生活を営み、その有する能力に応じた生活を送れるよう適切なサービスを提供する。
 ・要介護者、介護者と言う関係でなく、共に生活する仲間(家族)とした関係を大切にしている。
 ・私が仕事を終え帰ろうとする時、「行ってらっしゃい」と利用者の声、思わず「行ってきます」と答える私、こんな光景を私は夢見ていました。現実になり、私の疲れを飛ばして下さる利用者に感謝の日々です。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設から11年になるが、現状に甘んじるのではなく、今以上の目標を一つずつ着実に実現させてきている。そうした意味では、安心と安定があるホームである。ホームの理念である「家族のような関係、共に生活する仲間の関係」を大切にし、ほのぼのとした人間関係が見て取れる。
 管理者からも「充実した年だった。」という言葉が返ってきたが、家族との繋がりをしっかり進めたことや、運営推進会議の質の充実等、目標達成に取り組まれたようである。昨年は天候不良で中止となった祭りなど、地域を含めた取り組みも今後は予定されている。きのこグループの他施設との医療連携や、福祉連携などもあり、単独でない強みもある。スタッフ間の質の向上もグループ自体での取り組みがあり、そうした利点を生かして地域の中での拠点になってもらいたい。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「より家庭的に」という理念を大切にスタッフ全員近くの同施設をはじめ地域に出て行こうと気にしている	「家族を見る気持ちで」という方針は職員に浸透しており、利用者との信頼関係もできている。今年度目標を「家族との橋渡し」と「運営推進会議の充実」とし、家族や地域との関係作りにも力を入れている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	民家との距離がある為同グループ内の施設との交流が主となるが祭りには参加させてもらっている。又来られる方は全て歓迎で理美容・新聞・牛乳・食材配達さんの交流もある	ホームから出かけての交流は難しいが、買物に出かけたり地域サロンへ参加したりしている。中学生の職場体験や祭りの神輿が来たりしている。4つのホーム合同の祭りを計画したが今年は悪天候のため中止した。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	呼びかけはしているが見学をして頂く位の段階です		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年度の目標の1つでもある会議もあんな家のカラーが出て前進出来たと思う	法人内4ホーム合同で運営推進会議を行うが、それに加えてホームで独自に開催している。ホームの状況を知らせるほか、家族との関係作りや外部評価についての話をしている。	ホーム独自の開催ができるようになり、家族や地域との関係も深まると思うが、意見や感想をしっかり記録しておきたい。参加家族をふやし、ホームの問題を相談できる場にしたい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	年毎に市との関わりも増え、より密な体制が出来てきた	市との連絡は法人事務所が行うことが多いが、運営推進会議の方向性などの指示を受けたり、研修のお知らせをもらったりして、直接の関係が増えた。運営推進会議に毎回参加してもらっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は禁止している。スタッフ全員普通の事として守っている	身体拘束禁止は法人内では当然のこととしている。帰宅願望が強い新入利用者のために一時的に玄関に鍵をかけたこともあったが、今はその必要もなくなっている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	「自分の家族」という事を頭にいつも置いて利用者と接する様スタッフが共有していません。スタッフのストレスをためない様に心掛けています。入浴時等利用し身体状況の把握をしています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	まだ活用にまで至っていない		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居の際、書面を持って説明を行っている。疑問点はいつでも声をかけていただける様お願いしている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会や面会時を利用して意見をお願いしていますが、なかなかありません。又外部評価の時のアンケートの結果をふまえて家族会などに説明しています	年2回の家族会や運営推進会議で家族から意見を聞く機会がある。個別の要望は個別に応えているが、運営上の意見は少ない。外部評価アンケート結果や電話記録による意見を参考にしたりしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	スタッフ間はケアだけでなく日常の生活でも自由な意見が出せる様な関係作りに心がけています	毎週月曜日に勤務の職員で会議をしている。月2回は利用者の受診に向けた状態把握が主題だが、他の2回は自由に思いを話し合う。連絡ノートを使って他の職員に伝えている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は多忙の中、私達の事をよく気にかけて下さいます。ケアに対する助言も気軽にいただいています		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修の機会もあり、今年は前年よりスタッフ全体参加回数も増え自己研鑽に役立てている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループ内でグループホームの連絡会議を2カ月に1回位持つ様にし、問題を持ち寄り、知恵を出し合い、質の向上を目指している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の観察を十分し、又、生活歴を聞きながら、スタッフの前向きな意見を出しながら本人の安心出来る関係作りに務めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時ケアプラン作成時家族の要望を聞く様にしている。又面会時意見を聞く様に心がけている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービスを実施していく中で今後の支援等の予測をし、必要な支援をスタッフ間で話し合い見極めをしている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	介護者と要介護者の関係でなく共に生活する仲間とした関係の考え方が私達スタッフだけでなく利用者の方も「私の友達」と紹介してくださる様になりました		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	今年目標でもある本人と家族をつなげる役目をする策の一つとして年末家族(孫も含め)の方に本人の部屋の大掃除を計画賛同していただきました。特に昼食時、家族水入らずで楽しんでいただく事が出来喜ばれました		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族や知人はもちろん以前にサービスを受けていた施設の人々とも行き来し大切にしている。その為だれでも気軽に訪問していただけ様に入りやすい家にする様スタッフも努力している	法人内他施設に知り合いがある人もあり、受診時に出会い、話すことがある。時に近所にいた人が来訪することもある。家族の協力で、昔の家で草取りをしたり、墓参りをしたり、こだわりの美容室に行くこともある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の観察を十分してスタッフ間で話し合い、孤立する事を防ぎ、気の合うグループで行動を共に出来る様工夫している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の施設に行かれた方も来られて笑顔を見せて下さいます。又前の入居者の方に庭の手入れをお願いしています		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	積極的に思いや希望を把握する様務めている。コミュニケーションの取りにくい方も顔色をうかがいながら意向を把握している。又それをスタッフが共有している	ほとんどの利用者が話しができ、利用者の中に職員が入ったり一人の機会を見つけたりして、一人ひとりゆっくり昔話を聞くようにし、利用者の思いを職員間で共有している。計画作成時にも利用者の思いを大切にしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族からの聞き取りだけでなく本人の昔話から聞いた事やこれまでのサービス機関の情報等も大切にスタッフ間で共有している		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活記録を残しスタッフ間で話し確認し合って共有している		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の生活歴や趣味等を把握し、家族や本人の要望を基にプランを作り、Drの意見等取り入れて現状に即したものにしている	利用者本人の思いや家族の要望・職員の願いを取り入れて、受診時のまとめや日常記録の1ヶ月毎のまとめの結果を考慮して、計画の見直しを話し合う。6ヶ月毎に見直しを行っている。	日常の記録とカンファレンス結果・1ヶ月毎のまとめ結果などが計画見直し時の課題や支援内容につながり、また計画を実施できているかが見える記録をとりたい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録を残しスタッフで情報の共有に役だてている。又月に1回位の割合で見直して予期される事など話し合い、計画の見直しに役立っている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	「個人」を大切に、その人に必要なサービス、又今後予期される状況を推測し、その人に合ったサービスをスタッフ全員で見つけ出し提供している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	周りの施設や敷地が大きな資源となっているので、個人の趣味とADLを考えながら豊かな暮らしが出来る様工夫しています		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所内の病院に月に一度受診し、先生の意見をいただいている。又急変などで必要に応じ受診し、専門外の治療は専門医に受診出来る様支援している	毎月1回法人内の病院へ全員が受診に行く。緊急時には往診もしてもらえ、医療連携体制ができています。この1年間は急変はなかった。他科受診に同行することもある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	グループホームに看護師がいないので小さな気付きも事業所内の看護師と情報を密にする様に心掛けている。又健康診断等も高齢者の気遣いをしてもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	今年度は入院者はいなかった		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	個人の重度化をスタッフ会議で取り上げ終末期の在り方を家族と相談し、グループホームで無理な事は正直に話し、代替となるものを紹介し実践している	看護師がいないので看取りはしない。できるだけ対応はするが、重度化の時に家族や医師と話し合い、医療が必要であれば病院や老健などの施設で応してもらう。入浴が不可能となった時の対応も今後考える予定。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変を想定した話し合いを行い、初期対応のイメージを作っている。事業所内の病院も頼りになる所である。又救急車を呼んだ時のマニュアル等作ってある		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防火管理者を中心に避難訓練を年2回行い、地域の消防署と連携を取れる体制を整えている。又同事業所の協力も得られる体制にある	避難訓練を年2回実施し、夜間想定も行っている。他施設からの応援をもらってから避難することになっている。手すり付きの非難階段やスプリンクラーが設置されている。地震対策マニュアルも作成したいとのことである。。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	「個人」を尊重し、本人の意見や主張を大切にしながら声掛け・行動を起こすように心掛けている。	自己主張の強い人が多く、本人の主張を聞いた上で、できるだけしたいようにしてもらっている。トイレ誘導などは「手を洗って」などと言葉を変えて部屋へ誘うなど、本人を傷つけないように配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の意思を尊重しているため家事も利用者独自の癖が出ている。言葉だけでなく表情などで伺える「思い」もスタッフで共有し支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースに合わせて過して頂いている。気分や体調に合わせて自室やホールを自由に行き来し過ごします。1F・2Fも自由に行き来します。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	希望される方は美容院に行ってもらったり、又移動の難しい方には美容師さんに来て頂きます。マニキュアをしてもらって喜ぶ人もいます。又服やスリッパ等その人に合うものを選ぶよう家族と二人三脚で取り組んでいます。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	買物の好きな人、調理準備をする人、盛りつけの上手な人、後片付けの得意な人とそれぞれに合った事をやりながら楽しく過ごすよう支援している。	1階と2階とに分かれてそれぞれ職員も一緒に楽しく食事している。手伝いができる人に盛り付けや跡片付けをしてもらっている。介助の必要な人は一人だけで、全員同じ物を食べることができている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量は毎食記録し、スタッフ間で共有している。又量も多少個人差をつけている。水分補給も毎日2回は決まっている。その他は個々、状況に応じている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自室の洗面台を利用して口腔ケアの援助をしている。入れ歯の消毒は夜、週2回ポリデントをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	自室に個々のトイレがあるので、本人の行きたい時に使用する事が出来る。必要な方は排泄記録を残し、状況に応じてトイレ誘導、トイレでの排泄を心掛けている。	2名は排泄が一応自律している。他の人は誘導やチェックが必要だが、日中は紙パンツ利用でトイレで排泄している。失禁を隠したり、トイレを流さなかったり、夜ホールで失禁したりする人があり、絶えず気を配っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日々の記録や本人への聞き取りで排便チェックをしている。個人に応じた飲食の工夫、散歩等で便秘予防に努めている。必要な方には下剤を使用し対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は一日おき、午後の時間を利用し本人のペースで入って貰っている。毎日入りたい方や入った方が良い時は個々に考え対応している。	1日おきに入浴している。入浴が嫌いだった人もいたが、温度の調整などにより入れるようになった。体調を配慮しながら、ゆっくり時間をとって入っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	自室で休むだけでなくリビングにもソファやリクライニングを設け、ゆったりできる様な環境作りを心掛けている。夜の入眠時間も一人ひとりの生活習慣に合わせている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書をよく読み、その後の症状の変化等記録に残し、変化等医師に報告・相談をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事を中心に一人ひとり得意な事に取り組んでおられます。趣味を活かしたレクリエーションも取り入れている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎日は周辺の散歩を好きなグループに分かれて希望に応じ支援している。買物を利用しドライブをする。家族の方との親戚、知人への訪問も今年は増えた。	ホーム周辺の散歩は毎日1日に2回ぐらい行っている。買物や2~3人でのドライブにも出かけている。バス旅行の思い出があり、全員で出かける予定にしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金のトラブルは怖く、後々の人間関係に支障を生じるので、利用者は持っていません。欲しい物は家族に言って買って貰います。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望により支援する。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	1Fと2Fに共同の場所があり、それを包む様に個室が配置され、ホールを使いやすく皆で利用している。手作りの物を飾り温かみを出す工夫をしています。危険な物は目のつかない様に心掛けている。	1階と2階とにそれぞれキッチンがあり、小さなユニットの形で生活している。利用者は階段を使って元気に生活している。物を勝手に動かす人が多く、安全を考え、危険物を避け、物はあまり置いていない。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	1Fと2Fに共同空間がある事により、気の合った利用者同志が小グループで過せる様、又反対に気まずい時に他の階で過せる様見守っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の写真・仏壇・家具等をその人、家族の希望で配置、飾ってその方の部屋らしく工夫しています。中には飾りを嫌がって片付けてしまう人もあります。	居室内にトイレと洗面が付いている。家具や道具を持ち込んでいる人もあるが、全て片付けてしまう人もあり、人それぞれの居室である。畳の部屋で押入れに布団があるだけの人もある。衣類など職員が別に管理している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	必要な所はすりを設けたり、杖代わりに家具を配置して移動の安全を確保しています。2Fも階段とエレベーターを選んで使用できます。又トイレの位置を示す紙を貼ったりしている。		